

トランプ関税長期化の可能性

トランプ関税の着地点が見極めにくい。米国にとっても、保護主義的な政策をとることは輸入物価を引き上げるので好ましくないはずだ。現に、トランプ関税に呼応して株価やドルが下落した時は、市場の圧力に屈して米国が関税政策を見直すのではないかという期待を持った人も少なくなかったはずだ。しかし、その後の株式市場は回復し、ドルレートも安定しているように見える。

そもそも米国の保護主義による負担の配分は、米国と他の国の間で不均等になっているのではないだろうか。保護主義の



伊藤元重の

エコノウオッチ

負担は米国にもかかるが、その他の国への負担の方が大きくなっているという意味だ。経済学の議論の中では、大国より小国の方が貿易から得られる利益が大きいというものがある。裏を返せば、保護主義の負担も大国より小国の方が大きくなる。

この負担と利益の配分の議論は、いくつかの論点によって構成されている。ここで全てを紹介するスペースはないので、2つだけ示すこととする。まず、それぞれの経済の貿易依存の違いに注目した議論だ。

米国のような大国は、

米国への投資拡大 必要に

他の多くの国に比べて貿易依存度が小さい。国内生産によって賄える部分

必ずしも大きな負担とならない」という議論に關するもう一つの論点は、対米直接投資の動きに關するものだ。関税の壁によって米国市場へ輸出に

う以上のメリットとなるかもしれない。冒頭で「トランプ関税はいつまで続くのか」という論点を掲げた。こ

他方で小国の場合には、輸出依存度が大きい

関税の壁によって米国市場での売り上げを諦める

米市場への依存が大

変化の経済負担は大きく

多くの企業にとって、

関税政策が続くという前提

政策の狙いの一つは、国内生産を拡大すること

でも現地に投資して米国内の需要を確保しようと

関税負担を

ある。たとえその負担があっても、政治経済的に

そして米国にとっては、

飲み込むような価格引き

面もある。

「関税による保護主義

税によって貿易利益を失